

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200246		
法人名	株式会社 大淵産業		
事業所名	グループホーム清流		
所在地	〒869-4721 熊本県八代市昭和日進町会通152-3		
自己評価作成日	令和6年2月17日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護度の平均は2.7ですが、難聴の方、弱視の方、アルツハイマー型認知症の方、レビー小体型認知症の方、と抱えておられる疾患は様々です。その中で、トラブルなく良好な関係や交流ができるよう、常に見守り、必要に応じて間に入り支援を行っております。また、感染症の危険が常にあり外出支援がままならない分、施設内で楽しみが持てるよう、おやつ作りやレクレーション、体操、家事のお手伝いをこまめに声掛けて行っていただき、残存機能の維持を図ったり、役割をもって生活にメリハリが持てるように心掛けています。行事食も一緒に作っていただき、全員で会食したり、初詣でや花見に出かけたり、消防訓練等に参加していただき、イベントは全員参加で行えることに、いつも幸せを感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を中心として入居者の特徴や特性、認知的な変動等を的確に捉え、理念に掲げる入居者を主体に置いた日常を支援している。入居者個々に注視し、歌って過ごせる環境や新聞に目を通したり、会話を楽しむ等の“個”での生活や、集団ケアとしての生活はいきいきとして、音のある日常が入居者の笑いを引き出している。家事手伝いや家族から提供される花の苗等が入居者の役割や生き甲斐として生かされ、コロナ禍で閉じこもりがちな日々から外に出て楽しむ生活へと入り、入居者と職員とが一緒に過ごすこのホームならではの外出が支援されている。入居しても居心地の良い暮らしの継続に、入居者の思いや感情を職員が受け止め、健康管理の徹底や、笑顔のある暮らしに家族との連携や職員が一致協力して臨むホームである。これまでの地域での生活基盤は拡充されており、地域との交流促進に大いに期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に事業所の理念を掲示。職員はもちろん、外部の方にも知っていただけるようにしている。地域密着型サービスの意義を踏まえた理念となっており、その理念を共有し、実践につなげている様努力している。今後もカンファレンスの議題の一つとして話し合い、更に実践につなげていきたい。	開設時より掲げる理念は、地域との関係や地域との繋がりを大切にするケア等4項目を掲げ、職員のケア規範としている。カンファレンス時には利用者が主体であるとして入居者の特徴や課題等の話し合いに理念を想起させながら検討する等職員の意見や提案が生かされ、歌って過す入居者、話して過す方等“個”に注視した日常と、皆で一緒にとする外出等集団ケアを特徴として和やかに過す環境が形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降、地域との交流は減ってきていたが、地域の行事なども再開され、少しずつ交流も増えてきている。今後更に地域との交流に努め、気軽に立ち寄って頂けるような場所にしていきたい。	近隣住民からの野菜の差し入れ等地域との良好な関係は継続され、自治会の一員として会合への案内や水路掃除・空き缶拾い、どんどや等の情報は得ているが、参加までには至っていない。地域包括支援センター主催の会合(地域高齢者向け)に参加し、移動販売の状況や地域の状況等をリサーチしている。	感染症が5類に移行し、地域の行事も再開はされているが、高齢者施設として入居者が交流することは現状としては難しい面もあると思われる。地域の方々がホームへ足を向けていただけるような場所にしていきたいとする意向も聞かれた。広々とした環境を生かしながら地域住民と交流する機会があれば大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議も再開し、民生委員さんや老人会長さん等との交流は少しずつ増している。利用者様の日常を見て頂き、活動している中での疑問点や解決法も話し合うことができ、少しずつではあるが活かせてきていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は貴重な機会であるため、日程は決定次第スタッフに通知し、協力してもらっている。利用者様も当日は参加して頂き、報告や話し合いを行っている。又、参加出来なかった職員には早めの議事録作成により、確認してもらい、サービス向上に活かしている。	定期的開催する運営推進会議は、民生委員の例会に合わせた日時とすることで参加に繋げ、入居者も参加して自己紹介をされることで生活ぶりを確認する機会や認知症ケア啓発の一環として生かされている。ひやりはっと事例等も詳細に説明される等透明性のある運営体制である事が確認され、可視化(写真)による日常生活の発信等が理念として掲げるクオリティーライフの維持・継続の実践として表われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	八代市からの情報提供、報告書の提出等を通して、アドバイスをいただいている。更に、運営推進会議等で直接お尋ねする機会も増え、分からない事は質問し回答もいただいている。	行政からの情報提供や介護報酬やBCP策定に向けた相談等によりアドバイスを得ている。運営推進会議時の情報発信やホームからの質問には持ち帰り返答を頂く等により運営に反映させている。また、地域包括支援センター長からの意見や提案も挙る等お互いの情報交換、社会福祉協議会からの入居申込み相談等高齢者が関わる関係機関との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を前提に、どのようにしたら安全、安心な暮らしができるか話し合い、注意し合いながらケアを行っている。身体拘束適正化検討委員会も活用させてもらっている。	運営推進会議後に身体高拘束適正化委員会としてケースをもとにした検討会を行っている。また、定期的な“虐待の芽チェックリスト”により職員個々が振り返る機会を作っている。管理者研修や市及び地域包括支援センター主催の虐待防止や権利擁護等の研修に参加するとともに、職員との情報共有化に努めている。職員は大きな声で話しかけてしまうこともあるとして注意喚起し、転倒の危険性に人感センサーを使用しているが、家族への説明・同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の権利擁護の研修会へは可能な限り参加し勉強させてもらっている。その上で自己点検チェックリストなどを活用し、話し合いも定期的に行い、虐待防止に努めている。スタッフや利用者様相互の困りごと、悩み事を理解し、ストレスを貯めないよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修会等で、学ぶ機会はあるが、活用するまでの知識はなく、対象となる利用者様はいない。ただ、経済状況の悪化で支援を行ったことはある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはグループホームの立ち位置等説明した上で、考える余裕をもって、決定して頂いている。その後も折に触れ不安や疑問点は無いか尋ね、説明を行いご理解いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーになって頂き、意見を反映できるよう機会を設けている。また面会時情報交換を行い、サービスに反映している。第三者委員会もお知らせしている。今後アンケートの実施等も考えていきたい。	玄関に意見箱及びメモ等を備え付け、訪問時正しく状況を伝えることで家族の判断に委ねるとしている。また、運営推進会議も問題提起の場としている他、直接入居者の様子みてもらう事で(居室での面会可)安心に繋がっている。入居者の心身の状況変化には随時電話により報告し、アンケートにより入居者の呼び方を聞き取りしている。	感染症の状況を見ながら、家族と交流する機会を検討していただきたい。交流会から家族会へと発展することで、家族の忌憚りの無い意見や要望等の収集の機会が更にケアサービスへと繋がることと期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、面談、日常の対話にて意見交換を行い、業務に反映している。情報を広く共有し、相互に意見が言える環境を目指し、活動を行っている。	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、日々の申し送りの徹底や、毎月のカンファレンス、職員同士での意見交換等遠慮無く言える関係が出来ている。職員体制に大きな変動も無く、家庭環境の違い等も把握してお互いが協力し合うホームである。法人3グループホームでの情報交換等が強みとして研修等に生かされ、代表との面談も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの状況、現在の置かれている環境等、必要に応じ代表者に伝え、職場における個々の必要性を伝えている。又、それを正しく給与に反映して頂き、やりがいに繋げられる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内、提案はあるが、参加できる機会は限られている。今後もっとスタッフに、研修に参加してもらえよう、環境整備に努めたいと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者等、一部スタッフはネットワークづくりに参加できているが、全体的には新型コロナの影響もあり、交流の機会は少ないと思う。機会を増やして、サービスの向上に取り組んでいきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリー等の情報を基にご本人やご家族と話す機会を持ち、信頼関係が築けるよう努めている。ただ、会話が難しく、ご本人の気持ちを知ることが難しいと感じる場合、憶測や推測に頼りがちになる。スタッフ間でも情報を共有し合い、安心できるような関係作りに今後も努めたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは対面にて相談を受け、不安の解消、困りごとの解決に努めている。気付いたことがあれば、こちらから尋ねる事を怠らず、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番の困りごとに対応する支援の必要性を、スタッフ間で共有し、施設での暮らしに対する不安を少しでも減らせるようにしている。一つの方法だけでなく、別の方法もある場合、それも説明して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務優先となり、こちらのスケジュールで行ってしまうことがある。しかし、介護はご本人様らしいということもあり、利用者様の協力無くして業務の遂行は出来ない。常に人生の先輩であることを念頭に置き、共同で出来ることはお願いし、仕事をしながら学ばせてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居される時から説明を行い、支える立場でご協力いただいている。今後ご家族のお気持ちも考慮しつつ、協力いただけるよう努めていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の流行で限られた空間の中で、限られた人との交流になりがちである。ご家族の協力のもと、これまで楽しみにされてきたこと等、続けて行けるよう支援している。今後の状況を見て、買物等、以前されていたことの再開も検討していきたい。	初詣やこの地に継承される祭り見学、家族との買い物、正月の外泊等家族の協力を得ながら支援している。特記すべきは“皆で一緒に”を実現していることにあり、弁当持参での八代宮への参拝、餅つき、お彼岸のおはぎ作り、皆で作るみょうが万十等入居者がこれまで行われてきた慣習や馴染みの関係が途切れない様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を大事にしつつ、一つの家族として、お互いを尊重し合う関係作りに努めている。温厚な性格の方が多く、和気あいの雰囲気をよく見かける。ただ、時には感情で話されるケースもあり、そのような場合、理由を説明し分かり合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人への生活に支障をきたさないよう配慮している。特に看取りの後の家族支援の必要性を理解しているつもりだが、かかわり方に難しさも感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に意向を聞くことはもとより、その様子を観察し、把握が困難な場合ご家族にも確認する。スタッフ間でも話し合い、希望や意向の把握に努めている。	職員は入居者主体として入居者に寄り添いながら意向等を把握し日常生活に反映させている。自分の思いをはっきりと持った方が多く、話をしながらの生活が出来る方や独り言も思いの一つとして捉えている。子どもと一緒にいたいとする思いを持つ入居者には家族との電話連絡を支援したり、席を立たれるとトイレではと推察しながら支援し、毎日同じ話に傾聴する等“いつも通り”も元気のバロメーターとして捉えている。耳の聞こえが良くない入居者への対応等はプランに組み入れ統一したケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居時に本人様や家族様から聞き取りを行い、把握に努めている。その後も共に生活していく中で、理解を深めていけるよう、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中での観察、スタッフ間や記録からの情報の共有で、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや連絡ノートを活用して、スタッフ間で意見を出し合い、生活の質の向上に努めている。	毎月のケアカンファレンスでの話し合いや3ヶ月毎のモニタリングにより方向性を見極め、半年毎の見直しや変化があればその都度話し合い見直している。夜間の排泄に対するアセスメントの見直し、夏場の体調不良による検討、緊急時への対応等随時話し合うとともに本人や家族も交えた話し合いや、電話でのやり取り等により意向等を把握し、体調面ばかりでは無く、友達や地域活動に参加しながら楽しい時を過ごせることや役割のある生活を前向きな気持ちにさせるような計画等個別の且つ詳細なプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や連絡ノートに職員の気づきや様子を記入し、スタッフ間で情報共有ができています。また、それらを実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるよう柔軟な支援に努めているが、サービスの多機能化が行えているかは難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以降、閉じこもりがちであり、これまで関わりのあった地域資源との関係性も薄くなってきている。今は近くの神社に行ったり、近所を散歩したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、及びご家族の希望を第一にし、必要な医療が受けられるよう支援している。気になる症状がみられる場合、スタッフ間で協議の上、医師の診療につなげている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医として在宅時からのかかりつけ医の継続や協力医療機関からの訪問診療の他、受診が必要な場合には家族の対応としている。訪問歯科も利用し、定期的な診療及び週毎の口腔ケアを利用し、看護職員の配置により与薬のタイミングや皮膚等を細やかにチェックする他、オンコール体制として看護面からケアを見ることで異常の早期発見とともに職員のスキルアップ及び安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、ほかの職員から症状の報告や、相談を受け、的確にアドバイスしており、協働ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携室や病棟担当者との連携し、ホームでの状況はサマリー等で伝えるようにしている。退院後はホームで過ごすことができるよう、情報交換を密に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ることを説明、理解していたが、方針の共有と支援を行っている。こちらの気づきや変化はいち早く家族に報告するようにし、家族の不安も解消できるように話を聞いている。また疑問や質問がないか声掛けするように心がけている。	入居に際し、医療中心になるとホームでの生活は難しいが家族の希望があれば出来る限りの支援によりホームで終末期に対応できる事を説明している。重度化・終末期は今までの生活の延長として捉え、楽しく過ぎて貰いたいとしてそのときの状況により家族との話し合いを行っている。主治医と相談のうえ訪問看護を利用されたケースもある。ホームは生活の場であり、家族の判断に委ね、家族と連携しながら入居者及び家族の思いに応じて最終章を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応については、スタッフ間でレベルの差がある。更に研修が必要である。急変時や事故発生時の連絡は連絡網が作成されており、活用もされている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ、行政との協力は行っているが、地域との協力は充分ではない。年2回以上の訓練を行っているが、今後は地域の方々とも一緒に訓練を行う必要性を感じている。	消防立ち会いの上、火災訓練を昼・夜を想定し年2回、及び水害を想定した避難訓練を行っている。避難に要した時間により継続した訓練が必要としている。地域の状況はハザードマップでの確認とともに近隣住民からの情報(これまでは洪水は無い)を得ている。食備蓄や発電機等の用意等により有事に備えて、研修の中での地域の情報をリサーチしている。	地域との連携として、まずは運営推進会議を活用した訓練によりホームでの訓練の様子を確認して貰う事、及びBSPの作成も進行しており、地域と連携して取り込まれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	限られた時間の中で、スタッフの都合を優先し、プライバシーに配慮できない部分がある。つい周りにも聞こえるような声で話すことがあり、十分に気を付けたい。	入居者を年配者として敬いながら支援しているが、つい声が大きくなることもあと振り返っている。呼称は苗字にさん付けや家族からの希望で下の名前でも対応する他職歴からの呼び方を喜ばれる等入居前に自宅訪問により聞き取りやアンケートにより把握している。家族への個人情報使用(ホーム内での写真の掲示や運営推進会議での写真の使用等)同意書を交わし、職員へ対しても守秘義務について同意書を交わしている。	職員の声かけを課題として挙げられている。職員同士が注意喚起できる環境作りに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えを選んでもらったり、何か行う際、ご本人の意向をお尋ねしたりして、ご本人に決めてもらっている。利用者様の行動や言動を汲み取り、関わるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の一日に支障の出ない範囲で、ご本人のペースやタイミングに合わせたケアに努めているが、スタッフの都合でスケジュールを決めがちになり、気を付けてケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみはもちろん、定期的に散髪に来てもらい、清潔に過ごすことができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、料理のつぎ分けをお願いしている。調理をお願いすることもある。それぞれ誕生日には何を食べたいか？お尋ねしメニューを決めている。	法人3グループホームが入居者の好みを反映した献立表をもとに手作りの料理を提供している。手作りのおやつや行事食では季節感や食を通して話題を提供し、肉・野菜が苦手とする入居者対応としてペースト状としたり、嚥下状況によりきざみ等により提供している。入居者も干し柿や巻き寿司、餅つき・おやつ作り等に一緒に取り組み、誕生日には本人の好みのメニューで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の飲食物量、排便の状況、体重、血液検査のデータをチェックして支援に役立てている。必要に応じ栄養補助食品も活用している。また必要に応じ介助も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用されている方もおられ、相談したり指導いただき実践している。毎食後の口腔ケアの声掛け、できない方への介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その日のスタッフの数で出来たりできなかったりしている。アセスメントに基づいてケアができるようにしていきたい。	排泄パターンを把握し、席をたたれる行為を意思表示としてトイレへ誘導する等その状況によりトイレでの排泄として、重度化した入居者にも朝からトイレに誘導している。下着も状況に応じて対応し、昼・夜の使い分けにより気持ちよく過してもらおうよう努めている。夜間の排泄にパット等をまずは試供品を試してみる等個別に検討し、適切な排泄用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分摂取量の把握、毎日の体操等でスムーズな排便がある様支援しているが、コントロールが難しい。トイレ誘導を行ったり、下剤の量や服用時間を話し合い支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今のところは、施設の都合で入浴日や時間帯を設定している。ただ、入浴を拒否される場合、それに従い変更する。入浴中は日頃聞けない話も色々して下さる。有意義な時間となる様心がけている。	入浴は基本的には週に2～3回の支援とし、入浴を拒否される場合には改めて声を掛ける等強制はしないとしている。入浴時を職員との1対1の時として、「こんなよかとば忘れるもんな」とか、湯船に入ると長湯になるようである。菖蒲や柚・ミカンの皮や正月には初湯として入浴剤を使用し、リフト浴や両方からケアできる湯船が備えられている。汚染時のシャワー浴等清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて、声掛けしたり休憩時間を設けるようにしている。就寝時間も本人様の希望やペースに合わせるようにしている。室温や湿度、寝具の調整に気を配り、気持ち良く休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴を把握し、薬の効果の観察を行っている。ダブルチェックにて誤薬の防止を徹底し、確実に服用されたか確認している。日々の変化は記録に残し、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの残存能力の状態に応じ、心身機能の維持のため、役割の提供を行っているが、気分転換にもう少し外出を増やしてあげたらと考える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以降、減っていた外出を今年度は努めて出掛けられるよう支援しているが、今後はご本人の希望も聞き、更にお出かけの機会を増やしていきたい。	感染症が5類に移行し、ホームにこもりがちな日々から外に出る機会を増やし、全員で一緒に出かけている。入居者同士の会話の中に、“ここにいると暇や、養生にたけどテレビばかり見て、何かせんと…”等の声も挙るとのことではあるが、天気の良い日には散歩に出かけ、初詣や手作り弁当持参での外出等今年度は多岐にわたって支援している。家族との買い物や、家族から寄せられた花の苗植えや育成の確認は入居者の出番、役割として生かされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍以降、買物を一緒にすることができていない。今後様子を見て流行が治まれば、おやつや買物やご自分の日用品等の買物と一緒にいきたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の状況に応じて電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間になる様、清掃、空調管理を行い、季節を感じられる様、花や展示物で工夫している。ただ、話し声のトーンや量では、不快に思われている時もあると感じている。もう少し工夫が必要である。	玄関前には家族から提供された苗が今では咲き誇り、一足早い春を醸し出すホームでは、地域住民から提供される花や職員の持ち寄る草花や生け花教室として生けた入居者の作品が彩りとして生かされている。入居者同士の会話や独り言も環境の一つであり、相性に配慮したレイアウトや入居者に応じた湿度や換気の徹底等住環境に気を付けながらも歌に興じる入居者や洗濯物たたみ等に入居者個々が役割を持ち、歌って過ごせる環境は入居者の元気のバロメーターとして映るホームである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを各所に配置し、ほかの方と一緒に過ごされたい時、一人が良い時等、思い思いに過ごされているケースが多いが、スタッフの都合や他利用者様の事を考え、場所を設定することがある。更なる工夫が必要と思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの方は使い慣れた物や好みのものを活かし、ご本人が居心地よく過ごせるよう配慮しているが、物を置くことにより混乱が生じる方には、置ける範囲で好みの物を置き支援している。	家族には入居に当り使いなれた物の必要性を説明するとともに、入居されることにジレンマもあるとして我が家と同じように過ごして欲しいとする思いに寄り添いながら居室環境を整えている。テレビや家族写真、テーブルに椅子等が持ち込まれた部屋や、すっきりと整えた部屋等入居者の状況を見ながら居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の部屋、トイレ、浴室など貼り紙等で分かりやすくしているが、迷われた時は、声をかけ案内している。		